

名教就美会 会員の皆様へ



会長 永井孝雄

はじめに

会員の皆様には、ご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。今年も2018年6月2日の総会には、また元気な顔を拝見したいと心から願っております。

同総会の活動の根本は卒業生や恩師との交流にあり、そこから母校への愛校心や誇りなどが形成されていると思います。横浜国大卒業生・学生の文武での活躍は、オリンピック選手やTVタレント、作家や政治家等多岐にわたっていますが、教育、実業界、学会などで身近な先輩方の活躍が報じられる度に応援したくなるのではないのでしょうか。昨年は国大化学会の会員である藤嶋氏(現在東京理科大学学長)が酸化チタンの研究成果で文化勲章を受章し、今年の名教就美会総会でも講演を予定していますので、ぜひとも聴講ください。また今年こそは、名教就美会で支援をしているYNFP(横浜国大学生フォーミュラプロジェクト)や、横浜国大Robo+ismには全国大会で優勝に輝いてほしいと願っています。

大学ランキングについて

一方で、タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)やクアクアレリ・シモンズ社(QS)による大学世界ランキング向上への取り組みも大学国際課を中心に進んでおります。分析によれば横国大の弱点はサイテーション(論文引用数)とレピュテーション(外部からの評判)と言われております。これを受けて、理工系教員・学生への支援事業を行っている公益財団法人横浜工業会では、これらの向上に予算を振り向けております。即ちサイテーション向上のため、学部長の裁量で論文作成支援や国際学会での発表支援を強化し発表論文数を増やし、海外からの招聘支援などを通じ学会での知り合いを増や事が出来るような支援事業を増やしています。校友会や同窓会ではまだ直接的な支援事業は行っておらず、QSレピュテーション調査がYNU同総会員にもヒヤリングされるよう推薦活動等、間接的な支援に留まっています。大学に十分な対策予算が確保できない場合、基金室との更なる連携等が求められるのではないかと考えられます。

なぜ大学ランキングに敏感になっているのか?その理由ですが、一つは500位以下になると留学対象大学候補から外れてしまい、留学生が集まらなくなる問題が挙げられます。国際性の評価には外国人留学生比率も重視されていますので、ゆくゆくは負のスパイラルになりかねません。QSでの2018年世界総合ランクでは751-ですが、幸い国大は1000人を越える留学生が在籍し人気があります。また学科別のQS2017年世界ランクでは名教就美会会員を輩出する学科は201-250(日本で13位)、電子情報会員を輩出する学科は251-300(同11位)と健闘しています。しかし最近ではアジア周辺国の大学の台頭で日本の大学のランクが低下しています。このままでは企業の工場海外移転に続いて大学との共同研究までも海外に移転してしまう恐れがあります。米国も製造業の工場は数多く海外移転しているはずですが、何故米国は高いランクを維持し続ける事ができるのか研究する必要があります。金融、コンピュータ、航空機、軍事、情報技術などへの産業転換だけではなく、大学の組織や運営は民間企業以上に厳しい評価と高い報酬制度になっていると聞き及びます。日本の企業が日本での研究開発やモノづくりに焦点を合わせ

る事が出来る環境を産官学で創出してゆかなければ、日本での研究開発は衰退してしまいます。大学ランキングは大学だけの問題ではなく日本の産業力の問題でもあるので、経団連等からの革新的な提案が待たれます。会員の皆様からも大所高所からのご意見をお待ちしております。ご意見は下記HPからどうぞ。 <http://meikyoshubi.com>

名教就美会第4回総会・懇親会について

「会員同士の出会いの場を多く」に應える催しとして、6月2日(土)に開催します。今年は冒頭に長谷部学長から今後の大学の役割について講演をいただき、続いて東京理科大学長藤嶋昭氏から文化勲章受章となった酸化チタンに関する講演、更に宇宙アカデミー代表菊山紀彦氏から国際宇宙ステーションで活躍する宇宙飛行士に関する講演を予定しています。詳細は同封のパンフレットをご覧ください。その後懇親会では大いに語り合い、終了後は横浜駅まで直行バスでお送りします。ご家族や会員同志お誘いの上、ぜひご来場下さるようお待ちしております。

第13回横国Day(横浜国大ホームカミングデー)について

昨年から横国Dayと名を変えて行われています。昨年同様、大学祭(常盤祭)とは別日に開催を予定しております。日時などが決まりましたらホームページで紹介いたします。

学科再編と「名教就美会への会費納入の御願い」について

昨年4月からの都市科学部新設に伴い、理工学部の学科再編で機械工学・材料系学科は機械・材料・海洋系学科に名称が変わり、今年から工学研究院は理工学研究院になりました。

本同窓会は国立横浜高等工業学校第1期生から(その後国立横浜工業専門学校に変更)第29期までの卒業生、その後1949年～1958年横浜国立大学工学部機械工学科、1958年～1989年機械工学科と金属工学科、1989年～2014年生産工学科、2015年～名教就美会として11,000人余の会員名簿を管理しております。ただ、近年転勤・転居などで住所が不明になる会員も増え、連絡がつく会員は6,500人余に留まります。この対策に、連絡をとるための手段としてメールアドレス入手やホームページからの情報発信に力をいれてゆく所存です。

1昨年から年会費の一括払いによる終身会員の募集を始めたところ約500名の方々になっていただきました。その方々へは終身会員カードをお送りいたしました。卒業生は年会費納入からお得な終身会員への切り替えをお勧めいたします。また正会員・終身会員の皆様方には毎年一口1000円以上の維持会費を受け付けますので、併せてよろしく願いいたします。

おわりに

4月2日の機械・材料・海洋系学科の新入生オリエンテーション、4月3日の保護者の集いに出席し、名教就美会の紹介をする予定です。新入生への働きかけは同窓会への理解を得る良い機会と捉え、継続しております。一方正会員の皆様におかれましては、ご自身の貴重な体験をブラッシュアップ研修会等の講師として、若手会員に伝えていただく事などで、ご協力をお願いいたします。ブラッシュアップ研修会の案内は同窓会ホームページに掲載しておりますので、参加連絡を含めそちらを参照ください。

参加連絡は、同窓会事務局までメールかFAXでも申し込みできます。

名教就美会事務局

メールアドレス:doso-m@ynu.ac.jp FAX:045-339-3916

(平成30年3月1日記)